

平成28年度第1回 壮警町総合教育会議議事録

1. 期 日 平成28年8月29日(月)
2. 場 所 壮警町役場中会議室(2F)
3. 開 会 午後3時00分
4. 閉 会 午後3時55分
5. 出 席 者 町長 佐藤 秀敏
教育委員長 松 永美継
教育委員 金子 祐一
教育委員 濱田 美和子
教育委員 成澤 敏勇
教育長 田鍋 敏也
生涯学習課長 山本 貴浩
企画調整課長 庵 匡
企画調整課主事 篠原 真吾
6. 議 事 (1) 壮警高校の今後のあり方における方向性について

議事大要 別紙のとおり

1. 開会

庵課長

ただ今から、平成28年度第1回壮瞥町総合教育会議を開会させていただきます。

なお、議事に入るまでの間は、私のほうで進行させていただきます。どうぞよろしくお願いたします。

それでは、次第に沿いまして進めさせていただきます。

2. 町長挨拶

庵課長

まず初めに、佐藤町長のほうからご挨拶をお願いしたいと思います。

佐藤町長

みなさん、こんにちは。教育委員のみなさまにおかれましては、大変お忙しいなか、こうして第1回目の会議にご出席をいただきましたこと、心より感謝を申し上げます。

さて、昨年の会議では、本会議の持つ役割について教育委員のみなさまと認識の共有を図り、また壮瞥町の教育の方向性を示す教育大綱についてご協議をいただきました。

今回の会議では、懸案となっておりました壮瞥高校の今後のあり方について、庁内での分析、総合政策推進プロジェクトでの分析、検討結果や、先週開催されました町議会全員協議会での議論も踏まえ、町の考え方についてみなさまにご説明し、忌憚のないご意見を拝聴し、今後の方向性を明確にしていくとともに、町長部局と教育委員会との連携を密にし、この課題に取り組んでまいる所存でございます。

引き続き、教育委員のみなさまにおかれましても、ご理解とご協力をお願い申し上げます。本日は何卒よろしくお願いたします。

庵課長

ありがとうございました。

3. 教育委員長挨拶

庵課長

では続きまして、松永教育委員長からご挨拶をいただきたいと思います。

松永委員長

みなさん、こんにちは。本日の総合教育会議でございますけれども、まずもって、この開催にあたりまして、当初、先週の開催を予定されていたところですが、私事都合によりまして延期をいただき、大変ご迷惑をお掛けしました。初めにお詫びを申し上げます。

ただいま、佐藤町長さまからもご挨拶のなかでいただきましたとおり、壮瞥高等学校の今後のあり方につきまして、これからこの会議のなかで、大体の方向性を示しながら、そして今後協議を踏まえ、そして更にそのあり方に検討を加えていく、大変重要な第一歩というふうに考えてございます。

先日、議員協議会のなかでも、このことについてお示しいただいたというお考えもしてございますけれども、本日は私ども教育委員4名を含めまして、このなかでそれぞれの意見を出し合いながら、この大変重大な問題につきまして、検討を加えていただきますようお願いを申し上げながら、この会議がスムーズにそしてまた今後に向けて着実な一歩となるような会議となつていただきますことを期待申し上げて、委員長としての挨拶とさせていただきます。みなさん、よろしくお願いたします。

4. 議事

庵課長

ありがとうございました。それでは、早速議事に入りたいと思います。

ここからは、佐藤町長に議長をお願いしたいと思います。よろしくお願いたします。

佐藤町長

まず本件につきまして、私の考え方を述べさせていただきたいと思ひます。

壮瞥高校の今後のあり方における方向性についてでございますけれども、私は昨年の第4回定例会での一般質問に対して、生徒の多くが町外から通学している現状ではあります、これらの子どもたちが高校生活を通じて、わが町を知り、定住し、本町の将来を担っていただければありがたい。そのような観点から、できるならば将来にわたり存続をさせたい。また一方で、人口減少、少子化の影響により、高校入学者数の減少している現状を踏まえながら検討していくという、議会での一般質問への答弁をさせていただきました。

また、本年度の町政執行方針においては、壮瞥高等学校の老朽化の問題や、中学校統合後の学校のあり方などについて、将来を見据えた方向性を平成28年度中に決定しなければならないと考えており、改めて一定の考え方をお示し、議員のみなさまとも協議を進めていきたいと執行方針で述べさせていただいたところでございます。

そのため、高校の今後のあり方に係る判断材料とするための情報収集、分析作業等を先程ご挨拶で申し上げました庁内で行わせてまいりました。本日は、その結果について、教育委員のみなさまと情報共有をさせていただき、みなさま方のご意見を伺いたいと考えております。

佐藤町長

詳細につきましては、この後、担当から説明をさせますが、これらの分析も判断材料の一つとしながら、農業を含め、当地域経済を支える人材を育成輩出する高校の存在は重要であること。学科転換と特色ある農業高校の教育活動により、生徒数募集に改善の傾向があること。高校が定住人口と町税確保及び昼間人口の維持と公共交通の維持に貢献していること。4点目としまして、高校が地域の環境美化やイベントへの参画協力し、町づくりに貢献していること。また、広域的な役割を担っていることなど、高校の存在が本町にもたらしている様々な効果を重視し、基本的には、ただちに廃止するという判断には至らないと考えるところです。

一方で、生徒数減少や久保内移転に伴う通学環境面、移転費や運営費の負担などの課題への対応も必要なことから、町財政の健全運営の視点を常に持ち、他の公共サービスと同様に継続して検証を加えていく必要があることも認識しているところでもございます。

以上を踏まえ、私としては従前の考えどおり、今後も高校を存続していくことを前提とし、そのうえで統合後の久保内中学校校舎への移転、活用していくことという方向性に基づき、引き続き検討を加えてまいりたいと考えてございますので、教育委員のみなさんの忌憚のないご意見をお願いをいたします。

以上をもちまして、私の壮瞥高校に係る今後の方向性について考え方をお示しさせていただきます。

佐藤町長

それでは、ただいま申し上げた庁内分析、情報収集について担当から説明をさせます。

庵課長

それでは、みなさまのお手元にお配りをしております資料1について、役場のなかでも担当であり、本会議の事務局でもあります私の方から説明をさせていただきたいと思ひます。失礼ながら座らせていただいて、ご説明をいたします。

それでは、資料1の左側の方からお目通しをいただければと思ひます。これらにつきましては、先程町長からご説明のありました庁内、役場内での検討と言いましようか分析と言いましようか、そういった作業を行った要約と言いましようか、をまとめたものでございます。こちらにつきまして順次ご説明をさせていただきます。

庵課長

まず1番、分析検討の目的でございます。町では壮警高校の今後については、学科転換後2～3年、出願者数の推移と学校の役割について総合的に勘案して存廃を判断するとしてきた経過等を踏まえ、理事者の判断材料の1つとするため、庁内各課長で構成するプロジェクトチームで高校の今後のあり方、並びに統合後の久保内中学校校舎の活用方法について分析、検討を行いました。こちらに書いてございますように、高校のこと、久保内中学校校舎の活用、大きく2つに分けてですね分析をしております。

庵課長

まず1点目の高校の今後のあり方に係る分析結果についてご説明をいたします。このプロジェクトチームのなかではですね、大きく6つの方向性と言いましょつか結論を出しております。

まず1点目、四角で囲っておりますが、胆振西学区の年少人口は今後も減少し、入学者の確保は厳しい状況が続くため、生徒、保護者、中学校等に選ばれるための努力、取組がより一層必要となる。この答えを導き出しましたデータ、関係データとしてですね、下にア、イを記載しております。ひとつは入学者数でございます。平成25年までは大体15～26名のあいだで推移をしてきましたが、学科転換後は平成26年が35、平成27年が30名、平成28年は21名という推移で来ております。なお、平成28年は管内の中卒者総数自体がですね一時的な減少をしております。まあそれも大きな影響を及ぼしているのかなというように、要因として分析をしております。それから2点目、イ)胆振西学区の中卒者数見込みでございます。こちらは、北海道教育委員会のほうで計画をまとめております。そちらから引用をしております。平成28年、管内、西学区の中卒者数見込みは1,549名、平成35年、7年後には1,346名と予想をしております。7年間で200名ほど減少をするという見込みでございます。ただし、その一方で道立高校の間口調整の可能性も示唆しております。具体的には平成32から35年度の4年間で3～4学級程度の調整が必要であろうということを計画のなかで記載をしております。

庵課長

それから2点目、四角の2番でございますが、農業の構造的問題もあり、農業後継者の輩出は今後も伸び悩む可能性があるが、地域経済全体としては、将来を支える人材を育成輩出する高校の存在はさらに重要となる。こちらに関係するデータといたしましては、まず、ア)業種別の進路でございます。こちらは農業、農業関連への就業就職というのは、お聞きしたところ今は1割以下という状況だそうですが、実はこれは壮警高校に限らず、他の道内の農業高校においても同様であるというふうにお聞きをしております。その一方で、イ)西胆振管内全体の高卒者就職状況、こちらはハローワークでまとめたデータでございますが、近年、求人、高卒者の求人数、倍率は上昇傾向にございます。内定率もほぼ100%を維持。壮警高校についてもご存じのとおり100%を維持しております。これは近年、高卒者あるいは就職希望者数が減少する一方で、管内の求人は増加傾向にあると、当然のことながらアンバランスが生じて求人倍率が上がっていくということになります。また今後も少子化あるいは、近年顕著に見られます都市圏への流出、これらを背景に考えると、今後も管内への就職状況、採用状況というのは厳しい状況が続くのであろうと、そういう予想をしております。

庵課長

それから3番目、四角の3番目、実質的な高校運営費は年間2,000万円前後で町財政への負担は少ないため、他の歳出と同様に過剰な投資を控え、可能な範囲で経費節減を図ることが望ましい。こちらについては、運営収支というかたちで記載しております。高校の運営に関しましては、地方交付税が交付されておりますが、それを収入というふう置き換えて差し引いた数字がこちらに書いてあるものでございます。平成25年度については、約2,300万円、町一般財源からお金を出しているという状況です。参考までに、平成26年27年は学科転換がございまして、一時的にひとつの学校のなかに学科がふたつあるという、そういう状況になっています。それで交付税が通常よりも多く入ってきてしまっているのも、実はこの2年間は収入超過という状況です。ただこれはあくまでも一時的なものですから、今後もそういう見込みだということではなくて、平成25年にまで戻って、おそらくは2,000万円くらいの負担でいこうと。当然、財政への負担というのは少なくともありませんが、一般論として考えると、他の事業と同様ですね、町全体として費用の削減であったり経費の節約であったり、そういうものは必要であるだろうと、そういう回答でございます。

庵課長

続きまして四角の4番目、高校の存在が生産年齢人口の定住、町税確保、地域公共交通維持などに寄与している。こちらにつきましては、2つのデータがございます。1つは教職員の居住。町の職員が高校に勤務しているかたもちろんいますが、それらのかたを除いて、除いたかたで現在14名が在籍をされている。すなわち14世帯がですね、本町内に居住をしていると。これは人口減少が非常に大きな問題として抱えている当町にとっては、非常に大きな効果だというふうに認識しております。続きまして2番目、イ)地域公共交通、こちらは具体的な数字ではございませんが、バス通学生、伊達方面からですね通学をされている学生さんが多い関係もございまして、町内を運行している路線バスの利用者数の大きなウェイトを占めているということは誰が見ても間違いのない事実であろうと認識しております。したがってそれが、公共交通がどンドンどンドン全国で縮小をかけられているなかで、維持をしていくための大きなポイントと言いましょうか、そういった形になっているという理解をしています。

庵課長

続きまして四角の5番目、高校は地域に根ざした活動を通じて本町のまちづくりに貢献しているほか、様々な地域振興効果を創出している。という評価をしております。データとして2つございます。1つは地域との連携。たとえば、学習成果の発表還元という形で朝市であったり、壮高ショップめぐみであったり、そういった形でみなさんの学習成果が町民に還元されている。それから、りんごまつり、そうべつグルメマルシェ、あるいは町外のイベント、そういったイベントにも積極的にご参加をいただいている。それから、保育所の園児とのジャガイモ掘り交流ですとか、ヤマメの放流への協力、あるいは農業実習助成農業者との交流を通じて住民との交流も積極的に図られている。それから、宮前地区ですとか栄橋、あるいは保健センター前の花壇の整備、その他各種授業を通じて生産された花をご提供いただいたり、そういった地域の美化環境向上にもご貢献をいただいている。そのような評価をしております。もう1つ、地域への活力ということで、こちらはなかなか目に見えない、見えづらい部分と考えますが、生徒さんが高校へ通学するために町のなかを歩き、あるいは様々な活動を通じて町民の前ですね、元気な姿を見せていただけ。それは、町に賑わいをもたらす、町に若者がいるという、そういう安心感を町民に提供しているのではないかと。逆に高校が廃止となった場合には、当然それらの姿というのはなくなるわけで、今までの50年間当たり前のようにですね、町民、私も含め町民のみなさんは高校生のかたをご覧になっていたと思うんですが、それが、その光景が全て消失したときに失うものの大きさというのを感じるのではないかと、そのようなことも分析結果のひとつに加えております。

庵課長

それから最後でございます。管内唯一の農業高校、様々な生徒の受け皿など、広域的な役割も担っている。管内唯一の農業高校は言うまでもございませんし、お聞きしたところ様々な背景を持たれた生徒さんも通われていると。それは、壮瞥町内のお子さんは少ないのかもしれませんが、広域的な、近隣の町の生徒さんがたの受け皿にもなっていると。当然、当町の場合は様々な広域行政というものを担っています。逆に当町が周りの町のお世話になっている部分も少なくはありません。そういう意味ではお互い様と言いましょか、お互いが、町同士が助け合うという意味でも高校の存在というのは大きいという評価でございます。

以上が分析結果でございますが、ただその一方で現実的な問題として、現校舎は老朽化が明らかに著しい。生徒さんに良好な学習環境を提供していくためには、何らかの形で新たな校舎の確保が必要である。そのような結論になっております。

以上が高校の今後のあり方に係る分析結果でございます。

庵課長

ちょっと長くなってすみません、引き続きでご説明をさせていただきます。

右側のほうに移りまして、こちらは、それとはまた別に、別な視点から、久保内中学校校舎が来年度から空き校舎となってしまうわけですが、それらの活用方法としてどういう方法がいいかということを検討したものでございます。高校移転の可能性を考慮して大きく、高校以外の活用、それからもう1つは高校として活用した場合。その2つに分けて検討分析をしております。

庵課長

まず(1) 壮瞥高校移転以外の活用でございますが、実は全国には廃校舎を使った活用事例というのは多々ございます。大きく分析をすると、教育、文化、福祉、交流、体育、民間、その他の大きく7種に分類されます。それぞれについて、この久保内中学校校舎ではどうかということ当てはめていった検討結果でございます。

庵課長

候補として考えたのは大きく3つ。1つはコミュニティセンターとして活用するという。これは他の町の事例を見ても、最も地域になじむ手法のひとつであろうというふうに考えます。また現在、久保内地区の公共施設の再編検討委員会を設置しまして、そのなかで検討を加えているところですが、そのなかで青少年会館の老朽化に伴いまして、機能移転先候補をどうしようかと、そんなような議論をしている最中でございます。その候補とするという考え方も実はひとつあったんですが、ただ1つ目に書いてあるとおり、現状で言いますと、他の施設、例えば改善センターですとか、あるいは久保内小学校の空いている部分、未使用、使っていない部分だとかを活用して機能移転先を図っていくという検討をしているところですが、おそらくはそこで充足できるであろうと、そういう見込みを立てているところがひとつです。それから、今までの機能のなかでは地域のスポーツ団体、剣道ですとか、旧ジョイさんが活用されてますが、今年度、改善センターの床の改修を行います。スポーツにも適した施設に改修をするんですが、そうなった場合にそちらへの移転を希望するということが、おそらくはそのようになるであろうという想定をしております。などを考慮すると、校舎の活用部分というのが意外と少なく、決して有効な活用策とはならないと、そういう可能性があるということ懸念をしております。

庵課長

次に2点目、民間事業への活用でございます。これも全国のなかには事例としてございます。まして民間企業を誘致できれば、新しい産業ですとか、雇用、そういったものを当町に創出できるという効果も期待できます。ただその一方で、実は廃校舎というのは全国に多数存在しています。文科省の調べを参考にしますと、現在、年間500校ペースで廃校が発生していると、それから、未活用の校舎が今年の5月現在で1,000校ほどある。さらに文科省では廃校舎の活用促進のために、ホームページ上で廃校舎を希望する民間事業者さんと廃校舎をマッチングさせるような、そのような取組みもやっていますが、そこに登録している学校だけでもすでに200校ございます。ですから決して競争が楽ではないということは想定されます。それからもう1点として、久保内中学校の場合にはすぐ隣に小学校がございまして、当然、小学校の学習活動に影響のあるような民間事業の誘致というのはできないということになりますから、ただでさえ競争が激しいところにまたプラス要件が加わると、余計、ちょっと早期にですね誘致できる保証がないのではないかと、そういう分析をしております、ベストとはちょっと言い難いであろうという考えをしております。

庵課長

それから3点目、総合戦略登載事業といたしまして、こちらは昨年度、地方創生に係る総合戦略というものを当町でまとめております。そのなかでは、いくつかの施設を向こう数年間のあいだで整備していきたいということで位置付けておまして、例として加工施設ですとか、創業支援施設、農業研修施設というものを位置付けている。またそれとは別にスポーツ団体、スポーツ関連の団体を誘致して活性化を図っている事例なども実は研究をしてるんですが、具体化にはもう少し多角的な検討が必要な段階であろうと、特に採算性ですとか運営要件、民間との調整等を考えると、すぐに活用策として採択というのは難しいかなと、そんなような分析をしております。

以上が高校以外の活用方法でございます。

庵課長

(2)として、壮瞥高校移転した場合では、どのような課題が考えられるのか、あるいはどのような経費がかかるのか、ということをもとめたものでございます。

想定される課題と対策としては全部で5つ。まず1点目は、校舎及び運動場、ただこちらにつきましては、文科省の高校設置基準に照らして課題は今のところ見当たらないだろうと、そういう結論です。2点目、実習農場。これは現在、中学校周辺にはございませんから、当然新たな確保が必要になると。それから3点目の建物設備の改修につきましては、まずひとつは教室が、高校と中学校では授業形態が、授業の内容が違いますので、高校の授業に合わせた教室への改修というのがひとつは必要になると。それから久保内中学校校舎も、実は築30年を超えております。いろんな意味でメンテナンスと言いましょうか、機械電気設備の改修等、そういったものも必要になるであろうというのが、ふたつめの改修が必要だということです。それから4点目としては通学環境。通学手段の確保は当然必要となります。検討しているのは、バスの増便、ダイヤ路線改正、あるいはスクールバス購入、そういったものが想定されると。それから今現在、伊達室蘭方面から通われている生徒さんが多い現状を考えると、通学時間は伸びる、遠くなると、そういうことになろうかと思っております。それに伴いまして通学時間も伸びますし、乗り継ぎも発生するかもしれない。あるいは学校周辺に、今はコンビニエンスストアがありますが、久保内には現在ございませんので、そういった課題も新たに発生するであろうということが課題としてあげられます。それから最後に教職員住宅。こちらは学校周辺の管理職住宅は平成5年の建築ですが、その他が昭和50年代ということで相当老朽化をしております。ただし、滝之町地区にも既存住宅が今あるということもありまして、こちらにつきましては、やはり生徒さんの学習環境をまず優先というかたちで、必要に応じて適宜対応していくというような考え方をしております。

庵課長

それから、移転に伴う概算費用でございます。こちらは大きく2つに分けております。ア) 高校移転活用固有の経費と書いたものでございます。これは高校が行った場合にのみ発生するであろう経費でございます。ひとつは実習農場の確保、農地であったり、あるいは倉庫、ハウス、そういったものをちょっとかなり粗い計算ではありますが、4,000～5,000万円ぐらいという想定をしております。それから、先程申し上げた教室用の改修、スクールバスの購入で2,000万。都合6,000～7,000万。これは高校固有の経費ということでございます。それからもうひとつは、他の活用方法であっても発生する経費など、要は高校じゃなくても施設を活用したり、あるいは将来的に必要なだろうという経費です。ひとつは機械電気設備の改修、これはその他の活用であっても一定のメンテナンスは必要ですから、3,000万ほどはいずれにしてもかかるだろうと。それからもうひとつは、久保内保育所がもうすでに廃止になっております。それから、青少年会館については廃止を想定した協議検討を現在しています。やがては除却をする必要がある。また、高校移転の内容によりますが、場合によっては久保内中学校周辺の数少ない町有地でもございますので、その土地を何がしかの活用を図るという可能性もございます。その場合には、施設を除却ということが起こりうるので、その分も経費として加えています。両方合わせると1億2,000から4,000万円ぐらいということになりますが、性格を分けると2つに約半分ずつの2つの性格を持った経費ということになります。

以上を踏まえますと、久保内中学校校舎の活用としては、他の活用策の熟度や利用条件も踏まえると、高校移転が適当と判断されます。ただし、先程申し上げたとおり、通学環境面での新たな課題も生じるため対応は必要であろうと、そういう認識でございます。

以上の分析も参考に、判断材料のひとつとして、町長のほうで先程申し上げられました考え方に至ったという経過でございます。ご説明については以上です。

佐藤町長

ありがとうございます。

私はですね、壮瞥高校の今後をどうしていこうかということについてですね、役場内でいろいろ課題ですとか、今説明があったとおり高校の今後のあり方について、庁内で精査をしていただきましたし、また、平成28年度中に久保内中学校の空き校舎の活用について、どのような活用方法があるのかということも、それも同時に検討をしていただいております。私は高校の存続あるいは、校舎について今後どうしていくべきかという判断材料にするためにですね、今述べさせていただいたような内容で取りまとめをしていただきました。

このことについてですね、みなさんからそれぞれご意見をいただければと思っております。委員長のほうからお願いできますでしょうか。

松永委員長

今、また町長さん、担当のほうからご説明をいただいて、より具体化したですね壮瞥高校のあり方、方向性、それから存続についての、が示されたという状況でございますけれども、私も壮瞥高校、今後どうしていこうかということを以前から委員会のなかで考えてきた、非常に合致するところが多いと感じるところでありますし、また高校の存続については、これは存続をしたいという方向として、その存続にあたって、中学校を統合するにあたっての久保内中学校の校舎を壮瞥高校の校舎として活かす手段、やっていくことについては、同じようにこの方法が教育的見地から言って、それから教育施設の活用という部分においても、非常に妥当性があるなというふうに考えていますし、ただ、いくつかこの方向に持っていくためのクリアしなければならない課題が拝見したとおりですね、あるということですから、これについて今後、それぞれ各委員のみなさんがたからもご意見をいただきながら検討を進めていただければと思います。

教育委員会、教育委員長の立場、私の立場としてはですね、考えとしては、高校の存続、そして久保内中学校空き校舎の活用として、壮瞥高校久保内移設ということで、この方針に賛成をしたいという状況であります。以上です。

佐藤町長

ありがとうございました。
このプロジェクトで精査した課題について、1番と3番がですね課題になるのかなと思います。高校が果たしている役割については、2番あるいは、4番、5番、6番の役割になっていただいていますけれども、金子委員さんどうですか。

金子委員

私もですね、壮瞥高校という存在はですね、非常に活力を与えるものだと思ってますし、経済的にどれくらいの効果があるかとか、そういったものは全くわからないんですけど、農業、壮瞥町で農業をされているかたの仕方、仕組みもだいぶ変化してきて、対外的に農業、農協一方通行ではなくて、海外に行かれて成立している農家のかたもいますし、法人格を取っているかたもいますし、そういった意味でも、これから壮瞥高校の生徒さんが新規就農でチャレンジしたいと思って、壮瞥町の高校に入って、また就職するときに新規就農で入る可能性も十分に考えられますし、また壮瞥高校の2年前に学科転換をして、倍くらいの生徒数が入ったっていうのを見て、教育長や校長先生のPRの効果もあって、かなり生徒さんのニーズというか、学びたいという意味と、学科転換をした意味が合っているんじゃないかな、当たっていると思ってまして、まだ2年しか経ってませんので、効果というか、学科転換をした意味というのが10年くらい、やっぱり見ないと私はわからないと思ってますし、「めぐみ」というアンテナショップを作ったりですとか、地域の貢献を考えると10年は見届けたいなというふうに思ってます。という面と、久保内中学校に移転するっていうことを教育委員会でも話し合ったんですけど、本当によっこいしょでできるものでもないですし、いろんなことを町全体で考えながらやっていかなければならないものなのかなと思ってますので、そういった意味で、私も教育委員としてこれからも、久保内に来ても安心して、久保内中学校の校舎を使った壮瞥高校になっても同じような思いで来れるような環境を目指して、自分としても今のような意見を言わせていただきたいなと思ってます。

佐藤町長

高校は生産から流通まで、そういったことを生徒さんに学ばせていますけども、そういった観点で、生産から加工、販売まで手掛けています。
濱田委員さん、ご意見をお願いします。

濱田委員

壮瞥高校は、引き続き久保内中学校の校舎に移り、高校として継続してほしいという気持ちでいます。ここ2～3年くらい、壮瞥高校の生徒が、自分で仕事をしたいっていう子が多くて、女の子、男の子も来てるんですけど、非常に礼儀正しいんです。積極的に仕事の面で質問もしてて、このまま働いてほしいなっていう子が多いんですよね。それはまさしく、壮瞥高校の先生の努力かなと思ってます。こういう子たちが農業を継いで行ってもらえれば、本当に楽しいなと思っております。そんな意味で、壮瞥高校を今後も続けて、生徒が増えてもらえればなと思っております。それともうひとつ、実習農場の新たな確保が必要と、これがハウスであれば、簡単ではないんでしょうができるんではないかと思いますが、今まで育ててきている木とか、そういったものはどうしていくのかなと、移すと言っても向こうの土だの、こちらの土だのと全く違うと思えますし、できるのかなと、そういった面を心配しております。

佐藤町長

ありがとうございます。
答弁というか、それに対する答えはまた後ほど教育委員会からさせていただければと思います。
続きまして、久保内地域代表と言っただけなんですけれども、成澤委員さんご意見をいただきたいと思えます。

成澤委員

壮瞥高校に関してなんですけれども、自分も保護者で、たまたまこの春に自分の娘を高校に入れたんですけど、その時に感じたんですけども、意外と中学3年生が選ぶべき高校の数が割と少ないだなと感じました。実際に自分のときから35年、前から見ても実際に学校の数が減ってますし、そうなりとやはり子供の数が減ってるんですけど、子どもたちにとっての選択肢っていうのが、どんどん減ってちゃうくないんじゃないかなと感じたところです。その上での壮瞥高校。たしかに管内唯一の農業高校ということで、若干違うのかもしれませんが、その選択肢というか、学校があるということは非常に大切なことだと思うし、そういう面でも残していただきたいと思っています。壮瞥高校って特殊な、いろいろな取組みをされていて、特に管内、町内の小学校、中学校、保育所との関連、それは僕たちも目にしてますし、それを町内の大人たちも見てるっていう人がたくさんいるわけで、すごくいい高校なんじゃないかなと思ってます。たまたまなんですけど、私の弟の職場の同僚の子どもさんが、今現在、壮瞥高校に通われているそうです。ご兄弟で通われてて、そのお父さんが非常によろこんでいるということ、僕は弟から聞いています。非常に心配したけど、学校が楽しいって言うて行ってる。そんな声も実際に聞こえてますので、なんとかして残していただければ、ありがたいなと。

成澤委員

その上で移転、正直、久保内出身者としてはありがたいというか、ぜひどうぞという感じなんですけども、様々な問題もあるかと思えます。特に久保内小学校さんが隣にあるということ、を勘案しながら考えていただきたいというのがひとつ。そのためにも高校さんが来ていただくのは、非常にありがたいことだなと思えます。久保内小学校の子どもたちにとっても、中学生ではなくて高校生ですけど、ちょっと離れたお兄さんお姉さんが傍にいるっていうのは、いい環境になるんじゃないかなと思っています。非常に久保内地域としての夢が膨らむってことがたくさんあって、先程の商業施設の件に関しても、できれば1件でもあればな、あるいは今現在ある、お風呂のところにある、あそこところが少しでも規模が、少しでも高校生のために良くなれば、また地域の人たちもそこを利用するというのもできますので、いろんな夢が出てくるんですけどもそれに反して、やはりいろんな問題点でてきていて、バスのことであったり、それから濱田さんのおっしゃってた農場のことであったり、いろんなことがあるかと思えますので、ひとつひとつ考えながら、僕らも考えていきながらやっていければなと思っています。

もうひとつだけ、心配な部分があって、先程50年間の高校の存続があって、久保内中学校70年間の歴史があって、この来年の春に一度ピリオドを打つということになります。非常に地域の住民としては、中学生のその姿が見えなくなるということが、ものすごく痛手というか、さびしい部分があります。ただ、小学校は今もありますし、地域として盛り上げていこうと思っていますが、それと同じことが今ある高校のまわりの方たちも言えることだと思いますので、もし移転するのであれば、うまくいってほしいなと心から思いますので、その辺も考えていきたいなと思っています。以上です。

佐藤町長

ありがとうございました。
それでは、教育長お願いします。

田鍋教育長

壮瞥高校の存続については、町長部局と意見交換をさせていただきながら、存続がいいのかどうかということ町部局で検討をいただいたというところで、感謝を申し上げたいと思っておりますし、町長の考え、町側の検討分析を拝聴して説明を受けたところでありますが、私はこの職に5年前に就いたときに、前任の教育長から壮瞥高校の存廃について、懸案事項であると引き継ぎを受けたところであります。就任後経緯を把握したなかで、道教委ですとか胆振教育局の助言を得ながら、新しい高校づくりを考える検討委員会を設置して、教育委員のみなさんと随分意見交換をさせていただいて、半年後の平成24年の3月末に報告書的なもので、新しい高校づくり、壮瞥高校づくり基本方針をまとめ、教育委員会に説明し、決定し、町並びに議会のみなさんにもご説明させていただいたところです。この方針に基づきまして、平成26年度に園芸科から地域農業科へ学科転換をしたところです。学科転換を機に募集定員の半数に満たない状況がやや改善したものと考えています。学校の方針推進にご理解とご協力を賜った、壮瞥町並びに議会、教育委員のみなさん、そして一致協力して取組まれていた学校関係者、教職員の尽力の賜であると感謝をしているところであります。この方向性、今後定まっていくことについて我々も協力を、努力を同じ立場で考えていかなければならないなと思っております。学校統合ですとか、高校の存廃そして移転に伴った、今出ている課題ですとか、それ以外にも教育的な課題がたくさんあると認識していきまして、課題解決に向けてしっかりと学校関係者、学校や関係者とともに役割を果たして、町民のみなさんの理解をいただいていく、得られるように取り組んでいきたいなと、そのように私は考えてございます。

教育委員会では、教育委員のみなさまとこれからも短期、中期、長期の視点に立って壮瞥町の今後の教育について意見交換をさせていただき、もちろん町長と町側と意見交換をさせていただきたいなと、そのように思っておりますので、よろしく願いいたします。

佐藤町長

ありがとうございました。

それではですね、各委員のみなさんからの考え方を聞かせていただきました。この壮瞥高校はですね、昭和23年、伊達高校から壮瞥分校として開設され、27年に壮瞥高校という独立した町立高校に転換をしてですね、もはや63年ですか、67年ですね、非常に長い歴史を持った高校ですし、それぞれ多くのですね立派な人材を輩出してきた高校でもございますので、近年は生徒数も減少したりですね、あるいは町内から進学する学生さんが減少しておりますけども、やはり今、広域的な行政を担っている壮瞥町、西胆振の広域連携を踏まえてですね、多くの自治体と連携をして進めているなかで、やはり町外の高校生が通っているの、やはり広域的な役割を我々が担っていかなければならない。

道立高校ですと、これから定員確保に向けて努力をしていただくわけですが、道立高校であれば、ある程度の人数、20名を下回ると間口を考えると、か、指針もあるんですけども、町立高校の場合ですね、20名だとか15名だとかこだわらずに、勉強をしたい子どもたちがいればですね、1人2人というのは別としましても、やはりある程度の人数がいればですね、僕は壮瞥高校の役割を果たしていきたいなというふうに思います。

ただやはり、よく言われる費用対効果、僕は高校に対して費用対効果というのはすぐわないというふうに思っております。3番目の高校の運営費2,000万というふうになっておりますけれども、このことについてはですね今までも町の持出があったというふうに思っておりますけれども、このことについて、議会あるいは町民のみなさまから、町外の子どもだからとどうのこうのというような意見を今まで私はいただいていないと。ただ、ここに来て、やはり議会との議論、あるいは様々な場での議論のなかでは、そのようなことを発言されるかともいうふうに思いますけれども、私はそのように思っております。

佐藤町長

様々な課題、プロジェクトでのいろいろな課題、あるいは壮瞥高校の果たしていく役割についてですね、いろいろと調査をしていただきました。その結果、冒頭申し上げたとおり、壮瞥高校の存続を今後とも私としてはしていきたい。そしてそれに伴って、壮瞥高校の校舎、築50年と古い校舎でございますので、それを改修あるいは建替えをする場合、良質な環境を提供する場合にですね、建替えというのは相当な金額、負担になるだろうと。それであるならば、来年の春に中学校統合し、空き校舎となる久保内中学校の活用も視野に、これから議会あるいは町民のみなさんに私の考えを述べさせていただいてですね、理解をしていただくように努めていきたいというふうに思っておりますので、今後ともですね、教育委員のみなさんがたと連携を密にしながら、情報を共有しながらですね、取り進めていきたいと思っておりますので、今後ともよろしくお願ひしたいというふうに思います。

4時から教育委員会が開催されるということでございますので、短時間ではございましたけれども、みなさまから貴重なご意見をいただきました。これをもちまして、第1回目の会議を終了させていただきたいと思ひます。本日は誠にありがとうございました。

5. 閉会

庵課長

以上をもちまして、平成28年度第1回壮瞥町総合教育会議を終了いたします。

ありがとうございました。お疲れさまでした。